学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について (7月末までに開催するもの)

令和3年6月24日時点

		り作り十0万とする時点
開催日時	開催場所・形式	名称
6月26日(土)	オンライン開催	公開シンポジウム
13:00~16:45		「インセクトワールドー多様な昆虫の世界 II
		- J
6月26日(土)	オンライン開催	公開シンポジウム
13 : 30~17 : 30		「東日本大震災 10 年と史料保存-その取組と
		未来への継承-」
6月27日(日)	オンライン開催	公開シンポジウム
13:30~17:00		「脳とこころから見た With/Post コロナ時代
		のニューノーマルの課題と展望」
		シンポジウム2:コロナ禍における脳科学と人
		工知能
6月27日(日)	オンライン開催	公開シンポジウム
13:30~16:30		「コロナ禍における社会福祉の課題と近未来
		への展望~直面する危機から考える~」
6月29日(火)	オンライン開催	公開講演会
17:00~19:30		「新型コロナウィルス感染症対策の現状と今
		後-歯科からの発信-」
6月30日(水)	オンライン開催	公開シンポジウム
~7月2日(金)		「安全工学シンポジウム 2021」
7月3日(土)	オンライン開催	学術フォーラム
13:00~17:50		「気候変動等による地球環境の緊急事態に社
		会とどう立ち向かうかー環境学の新展開ー」
7月3日(土)	オンライン開催	公開シンポジウム
15 : 30~17 : 30		「コロナ下において考えるべき栄養」
7月17日(土)	オンライン開催	公開シンポジウム
13 : 25~17 : 00		「新型コロナワクチンを正しく知る」
7月18日(日)	オンライン開催	公開シンポジウム
13:00~19:00		「文化の互換可能性―継承・翻訳・再生―」
7月30日(金)	金沢大学+オン	中部地区会議主催学術講演会
13:00~16:30	ライン配信	「高齢社会を生きぬくための取り組み」



第11回 日本昆虫科学連合・日本学術会議 公開シンポジウム

インセクトワールド

-多様な昆虫の世界 11-」

要事前登録

今年はオンライン開催です!

2021年6月26日(土)

13:00~16:45

詳細・登録は

●活動報告

日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会活動報告 小野 正人(日本学術会議連携会員、玉川大学 農学部 教授)

日本昆虫科学連合活動報告 志賀 向子(日本昆虫科学連合代表、大阪大学 大学院理学研究科 教授)

●講演

座長:池田 素子(日本学術会議第二部会員、名古屋大学 大学院生命農学研究科 教授) 13:35~14:05

1) 矢代 敏久(国立研究開発法人 農研機構植物防疫研究部門 研究員)

「シロアリにおけるオスのいない社会の進化」

2) 亀田 恒徳 (国立研究開発法人 農研機構生物機能利用研究部門 ユニット長)

「ミノムシの生態と糸の特徴」

14:35~15:05

3) 上田 昇平(大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科 准教授)

「アリをめぐる生物の種間関係と共進化」

15:05~15:20 休憩

4) 沓掛 磨也子(国立研究開発法人 産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門 研究グループ長)

「社会性アスラムシにおける利他行動の分子基盤と進化」

5) 小野 正人(日本学術会議連携会員、玉川大学 農学部 教授)

「社会性ハチ類と私たちとの関係」

総合討論

16:20~16:45 座長:池田 素子 クリックでジャンプできない場

スラウザにURLをご入力ください

http://www.insect-sciences.jp/ conferences/domestic-conferences/9.html

問い合わせ先:日本昆虫科学連合事務局 後藤慎介(大阪市立大学 大学院理学研究科) E-mail: contact@insect-sciences2. sakura. ne. jp

主催

























日本学術会議史学委員会・日本歴史学協会主催公開シンポジウム

東日本大震災 10 年と史料保存一その取組と未来への継承一

日 時:2021 年 6 月 26 日(土) 13:30~17:30 オンライン開催〈参加費無料/先着順受付〉

参加登録用ウェブサイト https://forms.gle/EieasBhbUBme6YFL6



開会挨拶: 若尾政希 (日本学術会議会員/一橋大学教授)

報 告

佐藤 大介 (東北大学災害科学国際研究所准教授) 被災史料・被災地と向き合い続けて考えたこと

一宮城での活動の経験から一

大和田侑希 (福島県富岡町住民課係長)

歴史資料保存・活用に関する行政職員が担うべき役割と可能性 阿部 浩一(福島大学教授)

ふくしまの資料保全活動の 10 年を未来につなげる

特別報告

伊藤 一晴 (国立公文書館上席公文書専門官)

令和2年度アーキビスト認証の実施結果と令和3年度の取組について

コメント 芳 賀 満(日本学術会議会員/東北大学教授) 佐々木和子(神戸大学大学院人文学研究科学術研究員)

パネルディスカッション

パネリスト:佐藤大介/大和田侑希/阿部浩一

司会:大友一雄(日本学術会議連携会員)

熊本 史雄(駒澤大学教授)

閉会挨拶:中野達哉(日本歴史学協会委員長/駒澤大学教授)

主催:日本歴史学協会•日本学術会議史学委員会

日本学術会議史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会

後援:全国歴史資料保存利用機関連絡協議会・日本アーカイブズ学会

日本学術会議第二部臨床医学委員会・脳とこころ分科会主催シンポジウム 「脳とこころから見たWith/Postコロナ時代のニューノーマルの課題と展望」

コロナ禍とメンタルヘルス・ 教育・保健医療

オンライン (Zoom) および オンデマンド (YouTube) 13:30-17:00



[プログラム]

【開会の辞】

日本学術会議連携会員、脳とこころ分科会委員長 山脇成人(広島大学特任教授)

【開会の挨拶】

日本学術会議会長 展田降章 (東京大学卓越教授)

日本学術会議第二部会部長武田洋幸(東京大学副学長)

【閉会の挨拶】

日本学術会議会員 第二部会幹事 尾崎紀夫(名古屋大学教授)

メンタルヘルスへの実態と科学 的根拠に基づく対策の必要性

学校教育につきつけられる 諸課題

医療・福祉現場における メンタルヘルスの課題と対策

バネルディスカッション



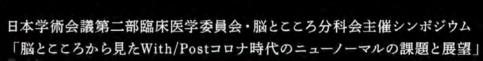
子どもの育ちと マイノリティ当事者の暮らし

能谷晋一郎 日本学術会構連携会員

清水睦美 日本教育社会学理事

ゆき子(NHK 解説委員) 三枝(日本学術会議第一部会員、 金沢大学教授)





コロナ禍における 脳科学と人工知能



[プログラム]

【開会の辞】

日本学術会議連携会員、脳とこころ分科会委員長 山脇成人(広島大学特任教授)

【開会の挨拶】

日本学術会議会長 梶田隆章 (東京大学卓越教授) 日本学術会議第二部会部長 武田洋幸(東京大学副学長)

日本学術会護 第二部会員 戸田達史 (東京大学教授)

新型コロナ感染による 中枢神経症状と病態

下畑享良

新型コロナ感染における

新型コロナ感染による 炎症は脳をどう変えるか?

コロナ禍の精神不安に 対処する計算神経科学

バネルディスカッション

神経病理の重要性ー現状と課題ー

指定発言者 服部 尚(朝日新聞医療部記者) 指定発言者 高橋 良輔(日本学術会議連携会員、京都大学教授)

主催:日本学術会議院床医学委員会脳とこころ分科会

原一部心理学、教育学及員会を設備が付金、健康・医療と心理学が付金、第二部大級機感免底予防・初圧体制検討が付金、基礎医学委員会神理ド学が付金、基礎医学委員会 臨床医学委員会合同アディクション分付会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会、第三部機能学委員会、総合工学委員会 機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会心と脳など新しい領域検討小委員会

参考: 日本版科学阅述学会通价, 日本图外科学会, 日本神師科学学会, 日本神師桐理学会, 日本羅理学会, 日本籍神民儒書源学会, 日本教育社会学会, 日本教育学会, 日本教育学会, 日本教育学会, 日本神師四郎学会

日本学術会議 SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

主催:日本学術会議院床医学委員会脳とこころ分科会

第一部心理学・教育予委員会副と意識分科会、健康・医療と心理学分科会、第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会、基礎医学委員会神経科学分科会、基礎医学委員会 臨床医学委員会合同アディクション分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会、第三部情報学委員会、総合工学委員会 機械工学委員会会研計算科学シミュレーションと工学設計分科会心と脳など新しい領域検討小委員会

機能・日本工能分子利温学会組合、日本限外科学会、日本神経科学学会、日本神経研学会、日本職等と、日本職等保護機能学会、日本教育社会学会、日本教育学会、日本教育学会、日本神経回路学会 聞い合わせ官口: 理化学研究所・今後目前特氏を研究ケール・配とこころ分科会 多商品・Email: ro-tuberu_sympo2021elmi.riken.ip



日本学術会議第二部臨床医学委員会・脳とこころ分科会主催シンポジウム 「脳とこころから見たWith/Postコロナ時代のニューノーマルの課題と展望」

コロナ禍とメンタルヘルス・ 教育・保健医療



子どもの育ちと マイノリティ当事者の暮らし

東京大学准教授

国連をはじめ、障害についての標準的な見方となっている社会モ デルによれば、障害とは個人の特徴ではなく、個人と社会環境と のミスマッチ状況を表す概念である。COVID-19による社会環境 の急激な変化は、大多数の人々に環境とのミスマッチを引き起こ し、障害はもはや一部の人々の問題ではなく普遍化された。その 一方で、オンラインへの移行によりミスマッチが軽減した個人や 活動領域も存在している。また、ミスマッチの程度には個人差が あり、もともと脆弱性の高かった人々とそうでない人々との間で、 不平等が拡大してもいる。こうした障害の普遍化と格差拡大は、 社会を分断と連帯の分岐点に立たせている。障害者同士の共感と 協働へ水路づけられるのか、それとも、資源の奪い合いが起きる のか。本講演では、COVID-19流行下における、マイノリティや 子どもの障害状況を、当事者の報告や先行研究を参照しつつ紹介 するとともに、多様な人々が所属意識をもち、支えあって生きる 新しい日常に向けた提案を行う。



学校教育につきつけられる

清水睦美 日本女子大学人間社会学部教授

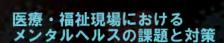
新型コロナウイルスの感染拡大と、その対応に伴う政治・経済・ 社会状況の変化の中で、学校教育を問い直す動きが活発化してい る。特に、政治主導のもとでの一斉休校は、そのあまりの唐突さ によって、「子どもの生活を守る」という学校の機能に光をあて ることになった。さらに、学校再開時に行われた「分散登校」は、 日本では長く据え置かれてきた多人数学級の仕組みを少人数学級 へと導く原動力となった。他方、密を避けることから導入の進ん だICT活用は、GIGAスクール構想を前倒しし、2021年度は基本 的に一人一台端末での学習が学校で始まっている。そこで問われ るのは、端末の前で与えられた課題をこなすような個別化された 学びが広がるのか、それとも、学びの深さと広がりを手助けする ような文具として端末が活用されるのか、この違いはかなり大き い。これら学校教育につきつけられている諸課題を共有しながら、 学校教育を問い直す動きを多角的に捉えてみたい。

メンタルヘルスへの実態と科学 的根拠に基づく対策の必要性

東北大学准教授

私たちが現在直面している COVID-19 流行による社会的混乱は、 人々の日常生活や社会経済活動に広範な影響を及しており、今な お終息が見えない現状にある。日本でも、この長期にわたるスト レスへの暴露や急速な景気の悪化に伴う失業などの経済問題によ り、うつ病、適応障害、アルコール関連障害などの精神疾患の発 症や悪化及び自殺者数の増加、子どもの精神発達への影響などが 懸念されており、メンタルヘルスの問題は極めて深刻である。こ のメンタルヘルス危機に対しては従来の精神医療の体制や方法論 では対応が困難であり、いわゆる「With/Post コロナ」の社会に おけるニューノーマルなメンタルヘルス対策が必要である。本講 演では、COVID-19流行下のメンタルヘルスの実態を世界各国の 研究報告を交え報告し、脳科学や AI 技術などの先端技術を活用

した科学的根拠に基づくメンタルヘルス対策を提案する。



日本学術会議連携会員



コロナ禍における、特に高度な入院医療が必要とされるの病床数 のひっ迫は、国民の活動抑制が必要とされる指標の一つでもあり、 人々の生活を左右するものとして注目される。コロナ禍の初期に は、感染への恐怖から医療関係者への差別的対応が問題となる一 方、感謝を表現するイベントや寄付が寄せられる場面もあった。 しかし、医療の現場で実際にどんなことがおこっているかは、市 民の目には触れにくく、理解されにくい。演者は2020年4月から、 看護師のメール相談、病院スタッフの不安に関する実態調査の分 析、障害者施設スタッフへのリモート支援にあたってきた。医療 の現場で体験される不安、不確実さの体験、そこで働く女性に特 有とされる苦境、訪問看護で出会う緊張の実際と現在の研究につ いて共有したい。さらに、リモートによるサポート体制整備の可 能性など、医療関係者への「支援者支援」について、共に考えたい。

主催:日本学術会議臨床医学委員会脳とこころ分科会

・部心理学・教育学委員会脳と意識分科会、健康・医療と心理学分科会、第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会、基礎医学委員会神経科学分科会、基礎医学委員会 臨床医学委員会合同アディクション分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会、第三部情報学委員会、総合工学委員会 機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会心と脳など新しい領域検討小委員会

共催:日本生命科学アカデミー、日本精神神経学会、日本神経学会、新学術領域「マルチスケール脳」

後援:日本脳科学男通学会連合、日本脳外科学会、日本神経科学学会、日本神経病理学会、日本薬理学会、日本精神保健看護学会、日本教育社会学会、日本教育学会、日本教育学会、日本神経回路学会



日本学術会議第二部臨床医学委員会・脳とこころ分科会主催シンポジウム 「脳とこころから見たWith/Postコロナ時代のニューノーマルの課題と展望」

コロナ禍における 脳科学と人工知能



新型コロナ感染による 中枢神経症状と病態

岐阜大学教授

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の原因ウイルス SARS-CoV-2 ウイルスは、脳神経系に感染する神経向性ウイ ルスである。実際に COVID-19 では、しばしば神経筋症状を 認める. 味覚障害, 嗅覚障害が特徴的であるが, 頭痛, めま いといった非特異的症状を呈し、さらに重症例では意識障害 の合併が多い、さらに重篤な神経筋合併症として、脳血管障 害, 脳炎/脳症, 末梢神経障害, 筋障害等が報告されている. これらの病態としては、ウイルスの中枢神経への直接感染, 血管内皮への感染、血液脳関門の破綻、血栓形成、間接的な 神経障害が指摘されている. また最近, COVID-19の後遺症(い わゆる long COVID) やワクチン後の副反応において、神経 症状の頻度が高いことも分かってきた、本講演では COVID-19 の急性期,後遺症,ワクチン後の神経症状を提示し, 病態と対応について解説したい.



新型コロナ感染における 神経病理の重要性-現状と課題-

日本学術会議連携会員 愛知医科大学特命研究教授

ウィルス感染症が脳や脊髄などの神経組織を侵す疾患は、狂 犬病や単純ヘルペス脳炎のような致死的感染症以外に、ウィ ルス性髄膜炎、あるいは日常的によくみられる帯状疱疹も神 経組織を感染の場としている。これらの病態は神経病理学的 に疾患脳を検索することで解明されてきた。狂犬病や単純へ ルペス脳炎では、ウィルスが嗅神経や末梢神経組織を逆行性 に伝播して脳内に侵入し、電子顕微鏡で神経細胞の核内で ウィルス粒子が増殖する像を確認できる。新型コロナ感染症 は、頭痛、めまい、味覚低下や嗅覚低下など様々な神経症状 を呈し、狂犬病や単純ヘルペス脳炎などと類似した感染経路、 血管内皮細胞の障害の介した経路、血栓形成による障害など が想定されているが、十分に解明されていない。神経障害の 病態解明と治療法開発のためには、脳組織を検索することが 重要で不可欠だが、現時点では知見の集積は不十分で、今後 の研究の進展が期待される。





炎症は本来、組織の損傷に伴い惹起され、組織の修復や免疫 応答を促すものである。しかし過度な炎症や炎症の慢性化が 起こると、組織の機能や構築はむしろ破壊され、抑うつや認 知機能低下など脳機能変容も生じてしまう。新型コロナ感染 の重症化には、過度の炎症性サイトカイン放出や血管障害を 伴うサイトカインストームが重要であることが分かってき た。新型コロナ感染には、めまい、頭痛、意識障害のような 中枢神経障害や、味覚・嗅覚障害、筋肉痛のような末梢神経 障害を伴うことも報告されている。本講演では、新型コロナ 感染に伴う炎症反応が、我々の脳機能にどのような影響を与 えているのかを考える。新型コロナ感染の流行や社会情勢の 変化により、抑うつ・不安など心の不調を訴える人々が増え ている。このような心理的なストレスも脳や体に炎症反応を 引き起こすことが分かってきた。新型コロナ感染と心の不調 が炎症を通じて影響を及ぼし合う可能性も議論したい。

コロナ禍の精神不安に 対処する計算神経科

日本学術会議第二部会員 人光男 ATR 脳情報通信総合研究所所



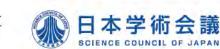
コロナ禍での行動嗜癖や自殺の増加が社会的な問題になって いる。KDDIと ATR は 大規模なオンライン調査の解析を共同 で行い、インターネットゲーム依存が特に 若い世代で増加し ていることを明らかにした。また自殺率増加の年齢性別によ る違いを、心的外傷後ストレス障害で説明できることが判っ た。コロナ禍での心の不安に対処するために、神経科学と Al 技術は少なくとも次のように貢献できる。第1にスマホアプ リなどのデジタルヘルスである。第2に、脳活動の計測にも とづく、精神疾患の脳回路バイオマーカである。これは、糖 尿病の血糖値、心疾患の心電図、肺疾患の胸部X線画像と同 じような役割を果たすことが期待されている。第3に、ニュー ロフィードバック治療である。従来の精神疾患や発達障 害の 治療法は、薬物、認知行動療法、電気磁気刺激であったが、 必ずしも満足できる効果が無い、強い副作用があるなど、革 新的な治療法が待ち望まれている。

主催:日本学術会議臨床医学委員会脳とこころ分科会

邓心理学·教育学委員会脳と意識分科会、健康·医療と心理学分科会、第二部大規模感染症予防·制圧体制検討分科会、基礎医学委員会神経科学分科会、基礎医学委員会 臨床医学委員会合同アディクション分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会、第三部情報学委員会、総合工学委員会 機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会心と脳など新しい領域検討小委員会

共催:日本生命科学アカテミー、日本精神神経学会、日本神経学会、新学術領域「マルチスケール脳」

後繼:日本服科学阅述学会通合、日本服外科学会、日本解科学学会、日本神経病理学会、日本基理学会、日本精神保强指護学会、日本教育社会学会、日本教育学会、日本神経回路学会



公開シンポジウム

コロナ禍における社会福祉の課題と近未来への展望

~直面する危機から考える~

日時 2021年6月27日(日)

13時00分~16時30分

参加費 無料

開催 ウェビナーによるオンライン開催

開催趣旨:コロナ禍において、社会福祉の実践現場では様々な課題に直面している。感染拡大にともなう生活困窮(問題)の拡大や福祉サービスの利用制限、地域活動の自粛、感染拡大の予防とサービス提供の両立を求められる福祉施設の運営、地域での感染者等への差別や排除、外国人や若者など既存の制度で対応できない人々への支援課題など、この間、様々な事象が表面化し、現場において試行錯誤の取り組みがなされてきた。

こうした取り組みは、新型コロナウィルスの感染拡大で生じた課題への対応としてだけではなく、これまで社会保障や社会福祉が抱えていた潜在的な課題、あるいは今後検討していかなければならないテーマの重要性を示唆するものである。社会福祉分科会では、2018年に提言『社会的つながりが弱い人への支援の在り方について』をまとめているが、その際に問題にした状況は益々深刻化している。

今回のシンポジウムでは コロナ禍で顕在化した社会福祉課題を確認し、コロナ禍のみならず、コロナが収束した後(アフターコロナ、ビョンドコロナ)にむけて、必要な対応について検討する。そのために、第Ⅰ部では、福祉現場からコロナ禍で顕在化した課題について報告していただき、そのうえで、第Ⅱ部では制度、政策、実践の基盤となる社会福祉学の観点から、社会福祉の近未来について展望する。

主 催:日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会

共 催:日本社会福祉系学会連合

後 援:社会福祉法人全国社会福祉協議会、公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団

法人日本精神保健福祉士協会、公益社団法人日本医療ソーシャルワーク協会、

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟

予定		内容
13:00	挨拶	湯澤直美(日本学術会議連携会員 日本社会福祉系学会連合会長)
13:05	基調報告	「コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会福祉の役割」 和気純子(日本学術会議第一部会員 東京都立大学教授)
13:20		からの報告 -コロナ禍で顕在化した課題-」 -ター 原田正樹(日本学術会議連携会員 日本福祉大学教授)
13:25	報告Ⅰ	「コロナ禍でつながる地域と診療所のソーシャルワーク」 榊原次郎(たちかわ脳神経外科クリニック 医療ソーシャルワーカー)
13:40	報告2	「コロナ禍で見えた移民、難民の健康・生活破壊」 大川昭博(NPO法人 移住者と連帯する全国ネットワーク理事)
13:55	報告3	「コロナ禍で生活困窮、社会的孤立を支える現場から」 勝部麗子(社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長)
14:10	報告4	「ポストコロナの社会福祉施設でのテクノロジーの導入」 宮本隆史(社会福祉法人 善光会COO)
14:25	討論	
14:45	休憩	
15:00		において問いかけられていることー社会福祉学からの問題提起-」 ーター 金子光一(日本学術会議連携会員 東洋大学教授)
15:05	報告し	「生存権保障のために〜生活保護行政に問いかけられているものもの」 岩永理恵(日本学術会議連携会員 日本女子大学准教授)
15:25	報告2	「医療機関で働くソーシャルワー <mark>カー</mark> の実態調査から見えてきたこと」 保正友子(日本学術会議連携会員 日本福祉大学教授)
15:45	報告3	「ジェンダー平等を実現するために~シングルマザーの現実から~」 湯澤直美(日本学術会議連携会員 立教大学教授)
16:05	討論	
16:30	閉会	木原活信(日本学術会議連携会員 同志社大学教授)



事前申込み

http://bit.ly/june27seminar (1,000名定員達成次第 締め切り)

- ・お申込み後、ZOOMのURLを送信いたします ・後日の配信については検討中です

申込締切 2021年6月25日 (金) 24時 お問合せ 社会福祉系学会連合事務局 jaswas.official@gmail.com

「新型コロナウィルス感染症対策の現状と今後 -歯科からの発信-」

下記により、日本学術会議歯学委員会・臨床系歯学分科会主催、日本歯学系学会協議会共催の講演会「新型コロナウィルス感染症対策の現状と今後 一歯科からの発信―」を開催致します。どなたでもご参加いただけますので、是非とも多くの皆様にご周知いただきますようお願い申し上げます。多数の方々のご参加をお待ちしております。

日本学術会議歯学委員会委員長 市川 哲雄 一般社団法人日本歯学系学会協議会理事長 羽村 章

記

日 時: 2021年6月29日(火) 17:00~19:30

開催形式 : Web (Zoom)

次 第:

17:00 開会挨拶

市川哲雄 (日本学術会議会員, 徳島大学医歯薬学研究部教授) 羽村 章 (日本歯科大学生命歯学部教授, 日本歯学系学会協議会理事長)

17:05~18:45

座長 馬場一美(日本学術会議連携会員,昭和大学歯学部教授) 講師

> 小嶺 祐子 (厚生労働省 医政局歯科保健課 課長補佐) 小林隆太郎(日本歯科大学生命歯学部教授) 忽那 賢志 (国立国際医療研究センター国際感染症センター 国際感染症対策室 医長)

19:30 閉会挨拶

参加申込方法:

参加(視聴)をご希望の各位におかれましては、6月25日(金)までに日本歯学系学会協議会事務局(gakkai18@kokuhoken.or.jp)まで①氏名、②ご所属(一般の方はご住所)の2点をご連絡ください。申込手続きいただいた各位には、開催日の前日までに視聴用IDとパスワードをメールにてご連絡いたします。

安全工学シンポジウム2021

ウイズコロナ時代の安全・安心

「安全工学シンポジウム2021」は、安全工学に関する各分野における問題点提起、優れた研究成果の講演と技術交流 により、安全工学および関連分野の発展に寄与することを目的とし、特別講演をはじめオーガナイズドセッション、パ ネルディスカッション、一般講演等の開催が予定されております。

「日 時〕2021年6月30日(水)~7月2日(金)

「会場」オンライン開催

特別講演 7月1日(木) 13:00~14:00

基調講演 7月1日(木) 10:00~10:40

COVID-19と建築空気環境

"産業安全行動分析学"の原理に基づく、 新たな生活習慣、有益な生産活動のために

大岡龍三 氏(東京大学生産技術研究所 教授)

北條理恵子 氏(労働安全衛生総合研究所)

パネルディスカッション

- **PD-1** ウイズコロナ時代の安全・安心(連携PD)
- PD-2 化学物質管理が創る安全・安心な社会~SAICMの社会実装
- PD-3 リスクアプローチは、どこまで可能性に迫れるか?

オーガナイズドセッション

- OS-1 ノンテクニカルスキル教育の今後を探る
- OS-2 レジリエンス・エンジニアリングと安全諸理論
- OS-3 人災の視点からの防災対策
- OS-4 水素エネルギー技術の社会実装におけるリスクを考える~水素ステーションを中心に~
- OS-5 危機管理における労働・地域・セキュリティ等のレジリエンス向上を目指す手法の開発と課題
- OS-6 産業安全行動分析学を用いた機械安全の考え方
- OS-7 外部要因による事故・災害(自然災害、人災)への対応
- OS-8 需要設備のスマート保安に関する最新動向
- OS-9 安全性設計と信頼性設計
- OS-10 土木工学における安全問題
- OS-11 組織行動からの事故などの未然防止
- OS-12 自動運転の社会実装に向けた取り組み
- OS-13 避難が難しい人の火災時の避難安全を考える
- OS-14 安心感側からみた「安全と安心」
- OS-15 風水害への航空宇宙分野からの取り組み

予稿集販売

予稿集(PDF版)をご希望の方はインターネット登録にて5,000円で販売致します。 (但し,学生は1部 2,000円)。※クレジット決済でのお支払いとなります。

主催:日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 共催:日本建築学会 他33学協会

問い合わせ先:安全工学シンポジウム2021 事務局 一般社団法人 日本建築学会 [E-mail] anzen@gakkai-web.net

事前登録必要

参加費無料

気候変動等による地球環境の

う立ち向かう

環境学の新展開 主催 日本学術会議 共催 環境学委員会、公益社団法人 環境科学会

協力 環境工学連合小委員会

日時 2021 年 7 月 3 日 (土) 13:00 ~ 17:50 (オンライン開催)

環境学は大きな変革期にある。人間活動の影響による気候変動は洪水や渇水を引き起こす異常気象や森林火災の頻度を高め、新型コロ ナウィルス感染症は地球規模で社会に甚大な影響を及ぼしている。ほかにも生物多様性の損失や化学物質汚染など、いわば地球環境の 緊急事態は深刻さを増している。これらの課題に対し、情報技術や環境投資などの誘導策も活用した、経済、社会、教育等が連携した 社会全体のパラダイムシフトが強く求められている。日本学術会議の中でも多分野のメンバーが関与する環境学から、それぞれの分野 の最先端の動きを紹介し、緊急を要する環境学の新たな展開を考えるフォーラムの第1弾!

PROGRAM

※都合によりプログラムを変更させていただく場合があります。何卒ご了承ください。

趣旨説明・環境学委員会に関するご紹介 日本学術会議環境学委員会委員長 13:10

基調講演:国際戦略の中での環境学の役割 日本学術会議副会長 13:40

持続可能な地球環境のための気候変動研究

13:55

環境政策・環境計画の新展開

14:10

環境投資の新展開

16:10

国立保健医療科学院上席主任研究官 浅見 真理

東京大学未来ビジョン研究センター教授 髙村 ゆかり

国立環境研究所地球システム領域長 三枝 信子

早稲田大学法学部教授 大塚 直

元横浜国立大学教授 工藤 由貴子

千葉大学大学院教授 池邊 このみ

東京工業大学教授 西田 佳史

九州大学大学院工学研究院教授 馬奈木 俊介

休

環境と社会の新展開 地球環境変化の人間的側面 (HD) 分科会 千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授

FE·WCRP 合同分科会

環境政策・環境計画分科会

サステイナブル投資小委員会

14:55 新学習指導要領がもとめる資質能力と環境思想 環境思想・環境教育分科会

15:10

環境リスクの新展開 環境リスク分科会

15:25

自然環境と都市の新展開 自然環境分科会 15:40

子どもの致死的状況の二度無しを実現するエコシステム

子どもの成育環境分科会

休 憩

環境科学の新展開 環境科学分科会

16:25 土木・建築学と脱炭素社会の新展開 脱炭素社会分科会

16:40

資源・材料循環の新展開 SDGs のための資源・材料の循環使用検討分科会

環境工学が拓く未来 環境工学連合小委員会 17:10

未来社会から現在を見る フューチャー・デザイン分科会

17:25

学会・他機関との連携と今後にむけて 環境科学会会長 17:45

閉会

東北大学大学院工学研究科教授 北川 尚美 早稲田大学創造理工学部教授 田辺 新一

名古屋大学名誉教授・中部大学客員教授 那須 民江

早稲田大学・東京大学大学院教授 所 千晴 国立環境研究所理事 森口 祐一

総合地球環境学研究所·高知工科大学教授 西條 辰義

長崎大学教授・元国立環境研究所理事長























日本栄養・食糧学会/日本学術会議 共同主催公開シンポジウム

コロナ下において 考えるべき栄養

令和3年

日時 7月3日土

 $15:30 \sim 17:30$



場所オンライン開催



https://www2.aeplan.co.jp/jsfns2021/index.html

■ 本シンポジウムは、日本栄養・食糧学会大会の期間中に<mark>行われますが、どなたでも</mark> ご参加いただけます。奮ってご参加ください。

15:30~15:40 開会の挨拶・概要説明

熊谷 日登美 (日本学術会議 IUNS 分科会委員長・日本大学生物資源科学部教授)

「新型コロナウイルスを制するための正しい知識 15:40~16:05 ~ワクチンと変異と食品と~」

水谷 哲也(東京農工大学未来疫学研究センター教授)

「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の治療における 16:05~16:30 臨床栄養学的アプローチェ

鷲澤 尚宏 (東邦大学医療センター教授)

16:30~16:55 「新型コロナウイルス感染症と栄養」

> 洒井 徹 (徳島大学大学院医歯薬学研究部教授)

16:55~17:20 「感染症予防に役立つ食事」

石田 裕美 (女子栄養大学栄養学部教授)

 $17:20 \sim 17:30$ 総括・閉会の挨拶

稲垣 暢也(日本学術会議 IUNS 分科会副委員長・京都大学大学院医学研究科教授)

第75回日本栄養・食糧学会大会運営事務局 問い合わせ先

E-mail: jsnfs2021@aeplan.co.jp TEL: 06-6350-7163

公開シンポジウム

「新型コロナワクチンを正しく知る」の開催について

- 1. 主 催:日本学術会議第二部、一般社団法人日本医学会連合、 公益社団法人日本薬学会
- 2. 後 援:調整中
- 3. 日 時:令和3年7月17日(土) 13:25 17:00 (シンポジウムは13:30より開始)
- 4. 場 所: オンライン開催
- 5. 開催趣旨:

新型コロナウイルスに対するワクチンの接種が進んでいます。4月には65歳以上の国民を対象にした接種が開始され、6月には大学・職域接種が開始されて、接種対象者に18~64歳が加わりました。しかし、国民のなかにはワクチン接種を躊躇する方々がおられると伝えられています。

日本学術会議では、本年4月と5月に新型コロナワクチンに関する学術フォーラムや公開シンポジウムを、日本医学会連合や日本薬学会と共同で主催してきました。新型コロナワクチンの接種が拡大される今、改めて、ワクチンに関する信頼できる情報を共有し、接種対象者の疑問や不安の解決に役立つことを願って市民公開シンポジウム企画しました。新型コロナワクチンの効果や副反応と併せて妊娠への影響、小児への投与についても取り上げます。

講演の内容や参加申込み方法などの詳細は、近日中に日本学術会

議ホームページ (<u>http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/313-s-0717.html</u>) に掲

載いたします

文化の互換可能性一継承、翻訳、再生一

日時:令和3年7月18日 13時~19時

オンライン配信(ZOOM)

 $13:00\sim 13:05$

上原麻有子(京都大学大学院文学研究科教授/日本学術会議連携会員)

趣旨説明

 $13:05\sim 13:30$

永井由佳里(北陸先端科学技術大学院大学教授/日本学術会議連携会員)

基調講演

「創造性のさまざまなあり方―文化・芸術を SDGs の視点から考える―」

●●●●●●●●●●● 講 演 ●●●●●●●●●

司会: 佐野みどり (学習院大学名誉教授/日本学術会議連携会員)

13:30~14:00 1) 荒川正明 (学習院大学教授)・繭山浩司 (修復家)

「破壊から再生へ ―ウィーン・ロースドルフ城所蔵の陶磁器修復―」

14:00~14:30 2) 岡岩太郎 (岡墨光堂代表)

「過去と対峙する修理 ―伝わる過程で変貌する絵画―」

14:30~15:00 3) 京都絵美(画家、東京藝術大学専門研究員)

「日本画の伝統と創造 ―〈模〉の思想をめぐって―」

●●●●●●●● 休 憩 ●●●●●●●

司会:上原麻有子

15:20~16:00 4) 小野真龍(天王寺舞楽協会常任理事)

「雅楽伝承における「翻訳」あるいは「再生」」

16:00~16:30 5) 酒井邦嘉(東京大学大学院総合文化研究科教授)

「AI 時代の創造と芸術」

●●●●●●●● パネルディスカッション ●●●●●●●●

司会:上原麻有子

16:30~18:30 小田部胤久(東京大学大学院人文社会系研究科教授/日本学術会議連携会員)

澁谷政子(福井大学教授/日本学術会議連携会員)

島尾新 (学習院大学教授)

武田宙也(京都大学大学院人間・環境学研究科准教授/日本学術会議連携会員)

吉岡洋(京都大学こころの未来研究センター特定教授/日本学術会議会員)

主催:日本学術会議哲学委員会 芸術と文化環境分科会

協力:京都大学文学研究科日本哲学史専修

http://www.nihontetsugaku-philosophie-japonaise.jp/

申込先: https://bit.ly/2RHm1IX 問合先: geijyutsubunkakankyo25@gmail.com

要事前登録

参加費無料



高齢社会を生きぬくための

取り組み

令和3年 7月30日金

13:00 > 16:30

人生100年時代に突入している我が国において、健康に生きるという ことが多くの人にとっての関心事です。

社会の高齢化が加速する中、医療の観点から、認知症や生活習慣病 に対する予防を目指したプロジェクト研究が、大学と地域との連携によ って実施されてきました。

また、社会福祉の現場では、石川発の「ごちゃまぜ」の概念に基づく共 生社会を目指したユニークな取組みが展開され、全国的にも注目され ています。

本講演会では、これまでの研究・実践成果や今後の展望を含めた取り 組みを紹介します。

PROGRAM

13:00-13:10 開会挨拶 13:10-13:20 日本学術会議会長挨拶

13:20-13:30 主催者挨拶

13:30 13:40 科学者との **懇談会活動報告**

13:40 16:25 学術講演会

金沢大学長 山崎 光悦

日本学術会議会長 梶田 隆章

(日本学術会議第三部会員、東京大学卓越教授)

日本学術会議中部地区会議代表幹事 池田 素子

(日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

中部地区科学者懇談会石川県幹事 福森 義宏

(金沢大学名誉教授、金沢大学ナノ生命科学研究所特任教授)

『高齢社会を生きぬくための取り組み』

地域コホート研究を起点とする認知症予防法の開発 ~なかじまプロジェクト~

金沢大学名誉教授、国家公務員共済組合連合会九段坂病院副院長、東京医科歯科大学特命教授 🔟 🞛

生活習慣病 (Non-communicable diseases) の個別化予防 ・ゼロ次予防を目指して

金沢大学医薬保健研究域医学系環境生態医学・公衆衛生学教授 中村 裕之

The ごちゃまぜ 看取り合う共生社会

社会福祉法人佛子園理事長 雄谷 良成

閉会挨拶

司会 日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 松井 三枝

(日本学術会議第一部会員、金沢大学国際基幹教育院教授)

金沢市角間町

※参加を希望される方は、7月26日(月)までに下記URLまたは右の QRコードより申し込みをお願いします。(対面・オンライン参加共通) 事前申込URL https://ws.formzu.net/dist/S12764568/

※新型コロナウイルス感染症の状況次第では、開催方法の変更等 の措置をとる場合があります。



●日本学術会議中部地区会議事務局(名古屋大学研究協力部研究企画課内) TEL: 052-789-2039 FAX: 052-789-2041

●金沢大学研究•社会共創推進部研究推進課

主催 日本学術会議中部地区会議

共 催 金沢大学、学術変革領域(A)「生涯学」

TEL:076-264-6140 FAX:076-234-4016

http://www.scj.go.jp/ja/area/index.html